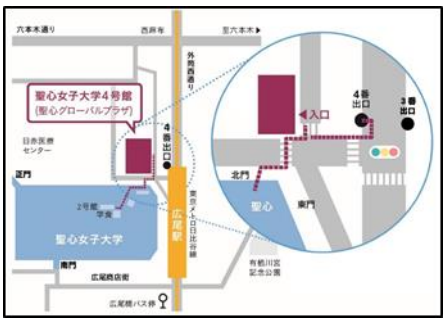
聖心女子大学グローバル共生研究所　難民・避難民研究プロジェクト最終報告会

ロヒンギャ問題を
三つの国から眺めて見る

日時・会場

2019年3月14日（木）18：30～20：30
聖心女子大学4号館／
聖心グローバルプラザ
（東京都渋谷区広尾4-2-24）
2階4－2教室

参加費：無料



報告

宇田有三（ジャーナリスト）

ビルマやその周辺を頻繁に訪れ、ミャンマーの少数民族などを巡る諸問題を積極的にカバーするフリーのフォトジャーナリスト。
本報告会ではビルマ(ミャンマー)・仏教徒の視点からみたロヒンギャ問題を解説する。

小野道子（日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

専門は南アジア地域研究（パキスタンおよびバングラデシュ）。JICAと国連ユニセフで南アジアに10年間在職し、カラチにおけるベンガル人移民およびロヒンギャの研究に携わる。今回は「パキスタンに生きるロヒンギャの人々」というタイトルで報告を伺う。

大橋正明（聖心女子大学文学部人間関係学科教授、聖心女子大学グローバル共生研究所長）

バングラデシュに日本の国際協力NGOシャプラニールや赤十字、そして研究者として1978年から通い続けており、現地や救援者の視点からロヒンギャ難民を見続けている。この２月にキャンプを再訪し、最新のキャンプや難民事情の変遷を報告する。

申し込み（先着60名）

https://goo.gl/forms/i0jr3MNl5JecoCXD2

聖心女子大学
グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures [SHISF]

主催・お問い合わせ：
聖心女子大学グローバル共生研究所
✉ kyosei@u-sacred-heart.ac.jp